

# 工事説明書

ST-155-3/156-3<50/60Hz>  
(販売店・工事店用) ST-H155-3/H156-3<50/60Hz>

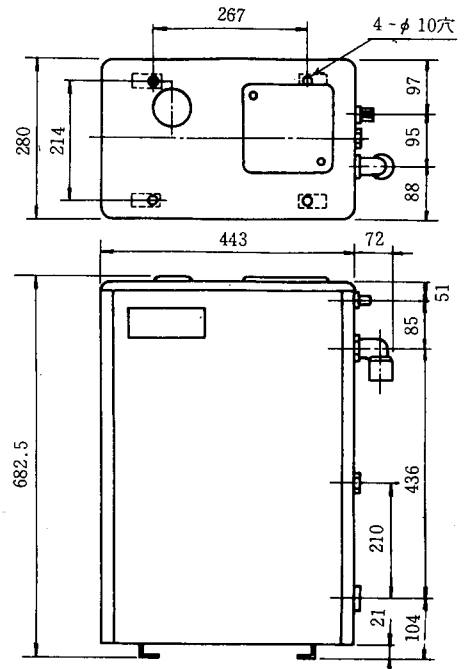
加圧シスターンはすえ付け工事が大切です。工事を行われる方は、この説明書に従って正しく設置してください。

## すえ付け前に

- 下記部品は、製品に付属していませんので、販売会社または、代理店よりお買い求めください。

- ① 自動空気抜弁
- ② 安全弁 (セット圧 95kPa {0.95kgf/cm<sup>2</sup>} 以下)

## 外形寸法図



## ● 都市水道に接続する場合

加圧シスターンまでの配管は、水道局指定の工事店に依頼してください。

- 付属のボールタップは、都市町村により、水道局の認可が必要なところがありますので、その場合はボールタップを持参のうえ認可を受けてください。

付属のボールタップは、兼工業(株)製 品番:SH13-3で13A (1/2B)を使用してください。

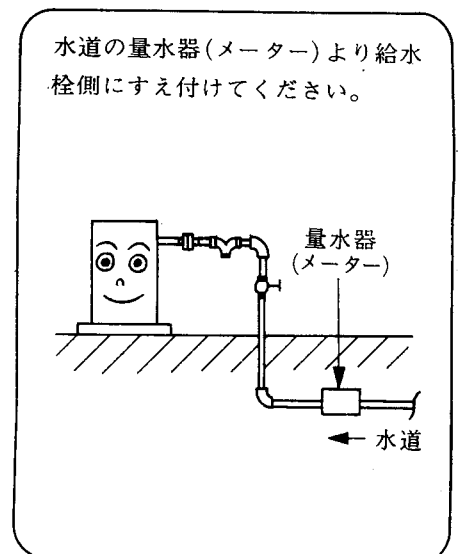
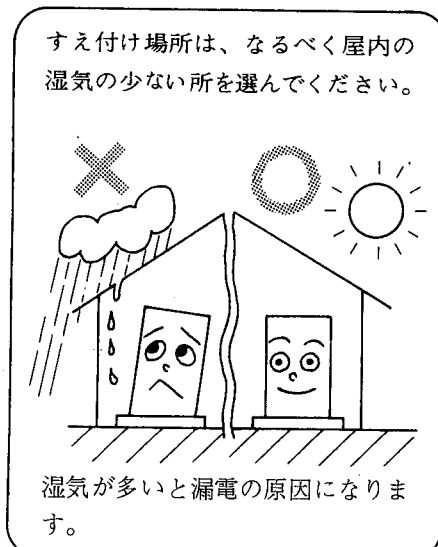
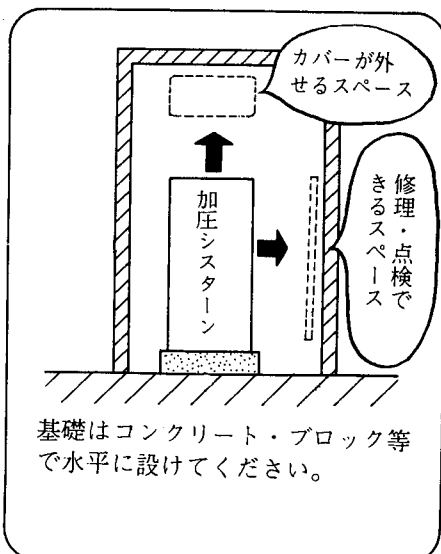
## ● 電源電圧をお確認ください。

電源電圧は、定格電圧の±10%の範囲内でご使用ください。

範囲外の場合は、電力会社にご相談ください。

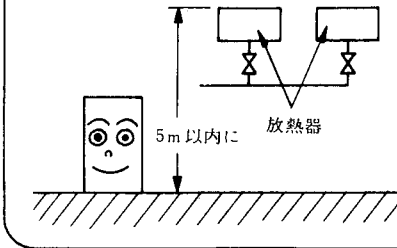
(範囲外で使用されますと、モータ故障の原因になります。)

## すえ付けの場所

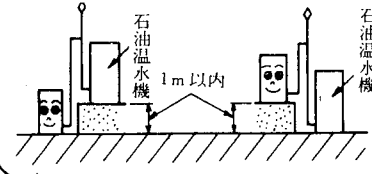


## すえ付け上のご注意

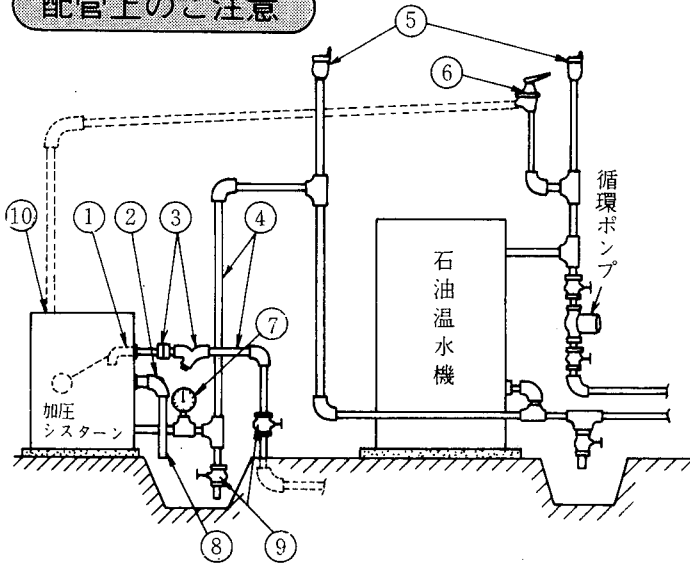
放熱器の設置高さは、加圧シスターンの底面より5m以内にしてください。



加圧シスターンと石油温水機の底面は、なるべく同位置にしてください。  
(高く、または低くすえ据ける場合は1m以内になるようにしてください。)



## 配管上のご注意



●左図(配管例)中の番号別の説明です。

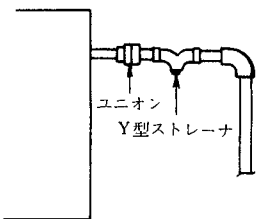
① ボールタップはボールタップ点検用窓を外し確実に取りつけてください。

(貯水槽側) 給水出口が真下になるように

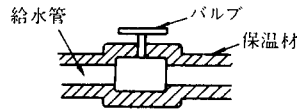
② オーバーフロー管はボールタップ点検用窓を外し確実に取りつけてください。

(貯水槽側)

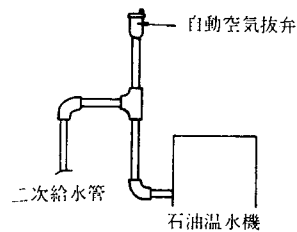
③ 一次給水管の接続部は、必ずユニオンで接続してください。また、Y型ストレーナ(市販品)の取り付けをおすすめします。



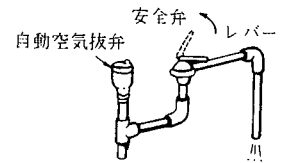
④ 一次給水管、二次給水管とも保温材を使用し、凍結防止対策を十分に行なってください。



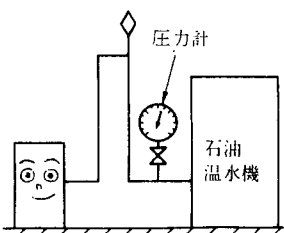
⑤ 配管内の空気抜き、および逆流防止のために二次給水管を石油温水機よりわずかに高く配管し、最高部に自動空気抜弁を取り付けてください。



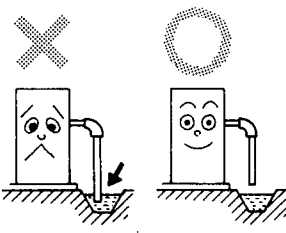
⑥ 安全弁を石油温水機の暖房行き口に必ず取り付けてください。



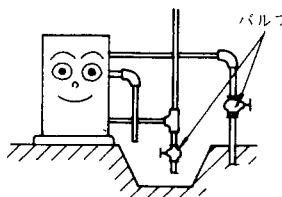
⑦ 二次給水管側に圧力計を取り付け、システムの圧力が常時測定できるようにしてください。



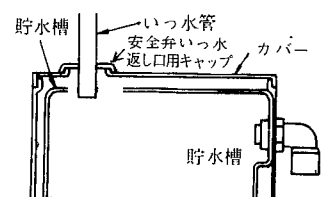
⑧ オーバーフロー管は下水道まで塩ビ配管をしてください。先端は水中まで伸ばさないでください。



⑨ 一次給水管には必ずバルブを取り付けてください。二次給水管には排水管を設け、バルブを取り付けてください。



⑩ 膨張水逃し弁、安全弁からのいっ水管は加圧シスターンのカバーの安全弁いっ水返し口用キャップにナイフ等で穴をあけパイプを挿入してください。(いっ水の横引きは先下りにしてください。)

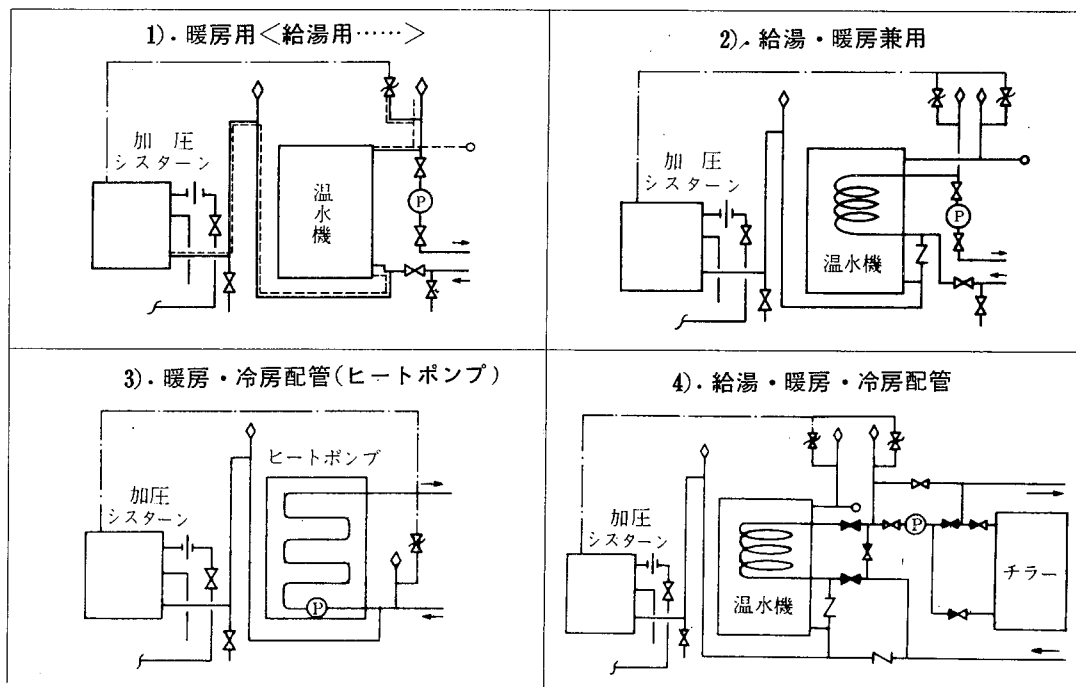


## 冷熱源機器と加圧シスターンの組合せ

製品名	形名	用途			備考
		暖房	給湯	冷房	
三菱 石油温水機	PB-SH35-B	○	○	—	△印 給湯水量がやや不足  ×印 給湯水量が不足  注) 冷暖房、給湯に 限らず、必ず安全弁 を設置してください。 (セット圧は95kPa {0.95kgf/cm <sup>2</sup> }以下)
	PB-SK35-B	○	○	—	
	PB-SH50-B	○	△	—	
	PB-SK50-C	○	△	—	
	PB-K80	○	×	—	
	PB-H80	○	×	—	
	PB-H110	○	×	—	
	PB-H140	○	×	—	
	PB-H180	○	×	—	
	CX-K27B	○	○	—	
三菱 チリングユニット	CR-2B・CR-3D~K20D	—	—	○	
	CA-3E~K20E	—	—	○	
	CAH-3E~K20E	○	—	○	

注) 安全弁は必ず設置してください。(セット圧は95kPa {0.95kgf/cm<sup>2</sup>} 以下)

## 配管例



	安全弁
	自動空気抜弁
	逆止弁
	ストップバルブ
	給湯栓

(暖房用 (バルブ ……開  
バルブ ……閉)  
冷房用 (バルブ ……開  
バルブ ……閉)

### (ご注意)

- 配管は、密閉配管になっていないことを確認してください。(配管出口に安全弁が付いていること)
- 加圧シスターンと石油温水機の間を山形配管とし、自動空気弁を取り付けてください。

## 配線工事

配線工事は電気設備技術基準や電力会社の内線規程に従って安全確実に行ってください。

- 加圧シスターンは電源プラグをコンセントに差し込むだけで運転できます。

(コンセントは加圧シスターン専用のものを設けてください。)  
また、自動運転しますので電源は昼夜の別なく入れておいてください。

- 漏電しゃ断器をお取り付けください。

万一漏電が起こった場合、直ちに電気を切り感電を防止するので安全です。

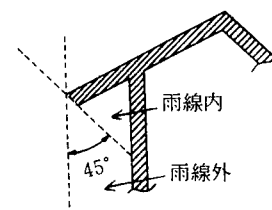
(右記に該当する場合、漏電しゃ断器の取り付けが義務づけられています。)

※漏電しゃ断器は三菱電機製をご使用ください。  
詳しくは最寄りの三菱電機営業所・代理店・販売会社にお問い合わせください。

設置場所 電源電圧	屋内		屋側	屋外	屋内、屋側の雨線内の 水気のある所
	雨線内	雨線外	雨線内		
100V	不要	不要	必要	必要	必要

加圧シスターン	漏電遮断器形名
単相用	NV-1F

(定格感度電流30mAのものを使用してください)



●万一の感電防止のため必ずアースを取り付けてください。(第三種接地工事)

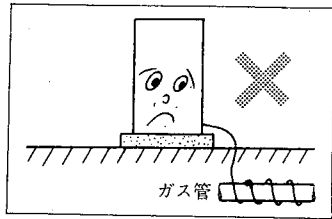
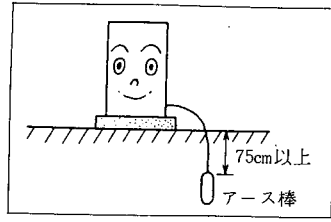
アース線を加圧シスターンのアース端子に接続し、アース棒を地中に埋めてください。

(注) アース工事の際は必ず電源を切ってから行なってください。

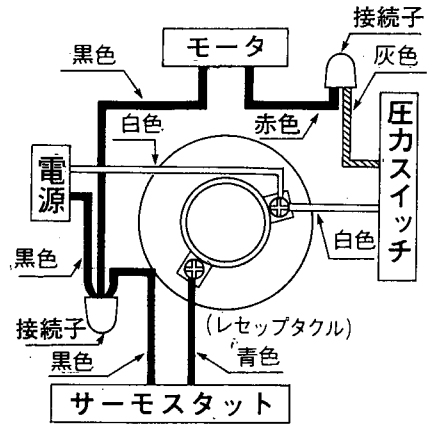
(ご注意)

ガス管には絶対にアース線を巻きつけしないでください。

(非常に危険ですから、法律で禁じられています。)



●結線図



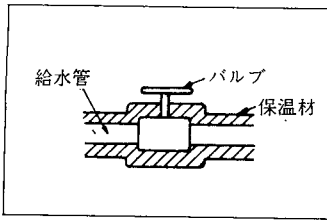
凍結防止工事について

冬期は、暖かい地方でも思わぬ寒波のために加圧シスターンや配管が凍結することがありますので、必ず下記の凍結防止を行なってください。

なお、凍結事故による本体破損については責任を負いかねますので、凍結防止対策は徹底して行なってください。

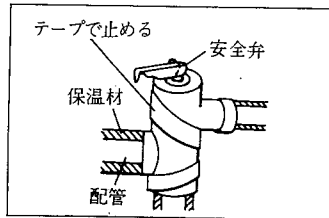
●配管の防寒方法

横引き配管は地中に埋めてください。その所要深さは、東京地方で45cmといわれています。また、露出部には一次給水管・二次給水管・オーバーフロー管とも糸綿やフェルトなどの保温材を巻いてください。



●安全弁・自動空気抜弁の保温

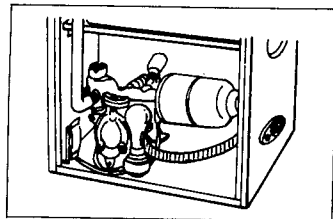
各弁とも十分な保温を行なってください。安全弁が凍結すると石油温水機破損の原因になります。



●加圧シスターンの保温

●電球による保温  
加圧シスターン内部のレセップタクルに必ず保温電球を取りつけて保温してください。

(需要家様によくご説明いただき必ず行なっていただいでください。)



●保温電球について

①保温電球はサーモスタットにより自動的に点滅します。  
(5℃で点灯・15℃で消灯します。)

●保温電球使用区分

最低気温	使用電球
-5℃まで	40W
-10℃まで	60W
-20℃まで	100W

②保温電球は110V用の街灯用電球か耐振電球をご使用ください。

(一般白熱電球はできるだけ使用しないでください。モータの振動により電球の寿命が極端に短くなります。)

(ご注意)

- ①電球を使用しないときは必ずレセップタクルにキャップをかぶせておいてください。  
(はずしたまま使用すると感電の原因になります)
- ②冬期凍結防止のために、本体内部に毛布や布切れなどをかぶせて防寒することは絶対にさけてください  
(火災の原因になります)
- ③シーズン前には電球が正常に点灯することを家庭用のソケットで必ず確認してください。  
(電球が切れていますと、ポンプが凍結して割れることがあります。)
- ④街灯用電球・耐振電球は特殊ですので、お早めに販売店にご注文ください。

試運転

- 試運転は「取扱説明書」5ページの運転方法の項をご参照ください。
- 運転の方法は需要家様にも十分理解していただくようご説明ください。